

平成30年度

# 希望溢れる輝くまち「熱海」への 政策提言書

一般社団法人熱海青年会議所



## ご挨拶

平素は一般社団法人熱海青年会議所（以下熱海ＪＣ）の運動に、多大なるご支援、ご協力を賜り、会を代表して心より御礼申し上げます。私ども熱海ＪＣは１９５６年５月１４日、３３名の会員により、現在全国で６９５を数える青年会議所の第８９番目の青年会議所として誕生いたしました。そして本年は「原点回帰～青年としての矜持を胸に明日の社会を切り開こう～」をスローガンに掲げて事業を展開してまいりました。今まで市民の皆様に多大なご理解、ご協力をいただきながら６２年の歴史と伝統を紡いできましたが、ただ年月を経過するごとに日々の活動に忙殺されて熱海ＪＣの存在意義について考える機会や時間が希薄になっているような気がします。今一度「熱」と「意気」とを再認識し青年としての矜持を抱けば必ずや輝く未来を切り開くことができると考え、活動に邁進してまいりました。

さて、昨今の経済事情、社会情勢は決して楽観視することができない現実があるのは周知の事実です。そのような中、我々が暮らし経済活動を行っている熱海は、東日本大震災直後に比べればいくらか活況を取り戻すことができました。しかし現状に楽観視することは非常に危険です。この回復基調を確固たるものにするには今一度熱海を見つめ直し、改めるところは改善する努力は必須であると考えます。今年度、我々熱海ＪＣは「希望溢れる輝く街『熱海』の創造」を目的に政策提言書を作成いたしました。未来志向の提言として魅力ある街の整備やインフラ整備などの提案の他、現在抱えている問題点について研究し解決策について議論を重ねました。また観光客だけでなくこの地に住まう我々市民にとっても魅力ある街づくりというのは考えなければならない題目です。熱海がこれから先も永遠に繁栄する街となるような提言書の取りまとめに注力いたしました。

最後になりますが、愛する郷土である熱海の発展のために、地に足をつけて今できることを真剣に考えて行動することが熱海ＪＣの使命であると考えています。あらゆる手法を駆使して明るい豊かな社会の実現のため、不断の努力でこれからも事業に邁進する所存です。今度とも我々の活動・運動に対するご支援ご協力、そしてより一層のご指導ご鞭撻を賜りますことを心よりお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。

一般社団法人熱海青年会議所  
理事長 山田 高史



目次

◆ ご挨拶

◆ 提言

1. 未来志向の提言

I. 観光客増に向けた提言

施策1 魅力ある町の整備

- 海周辺バスターミナル整備による街中回遊促進
- 海のアクティビティ発信基地の整備
- 丹那湧水園の新設

施策2 広域な集客を可能にする交通インフラ整備

- 交通インフラ整備に関する重要性

施策3 公共空間利用促進へのガイドラインの作成

II. 住人満足度向上に向けた提言

施策1 新規起業の起きる仕組みの提言

- スタートアップ支援

施策2 若年層がいきいきと働き住むことができる街の提言

- スモールコミュニティの推進、横の連携をサポート

2. 課題解決の提言

I. 超高齢社会でも安心して暮らす街

施策1 健康年齢増進への取組支援

- スポーツ運動成果への支援

II. 労働力不足への提言

施策1 住宅環境の支援への提言

- 移住を視野に住環境と就労を明確にしていく取組

施策2 外国人労働者支援とマッチング

III. 大規模災害における備えの提言

施策1 常設避難所の設置の提言

◆ まとめ

1. 未来志向の提言

## I. 観光客増に向けた提言

### 施策1 魅力ある町の整備

#### ● 海周辺バスターミナル整備による街中回遊促進

宿泊来街者が3年連続300万人を超える中、街中の賑わいについては、さほどの変化は見られない。その原因の一つを宿泊先から駅への送迎に有るのではないかと仮定し方法を提言する。



熱海駅改札写真



熱海銀座通り写真

宿泊施設数は、平成27年時点で旅館ホテル116件、寮・保養所は175件、合計291施設となっている。

現在熱海市内宿泊施設（25施設ほど）では、宿泊のお客様向けに熱海駅前ロータリーを利用しサービスとして送迎を行っている。



バス降車風景写真



熱海駅ロータリー写真

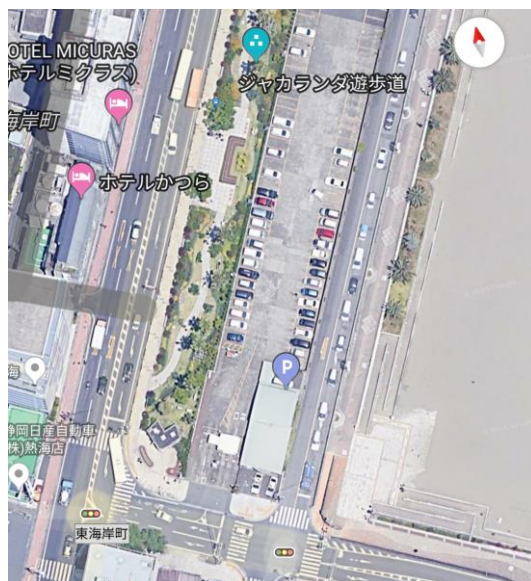
そのことから現在の送迎の仕組みでは、熱海の魅力的な町の散策をしたいと思うお客様は、宿泊先から徒歩もしくはタクシー、バスを使い目的地に向かうこととなる。

これは街中の賑わい創出において多大なる損失であるといわざるを得ない。しかしながら、現在行われている送迎サービスを規制してはサービスレベルの低下に他ならず、より良い解決策を行う必要があると考える。

そこで我々は、送迎利用のお客様のために街中中継地として、熱海サンビーチ市営駐車



場の一部を熱海駅同様に改修し、バスロータリーを設けることを提案する。



サンビーチ駐車場

中継下車のみとするルールなどを設けることにより、他の交通機関（公共バス、タクシー）に対する影響を少なくしていく配慮は必要である。

ターミナルを実施することにより街中での下車につなげ街中回遊の賑わい創出を行うことが期待できると考え提言する。



熱海観光協会海辺のあたみマルシェより

## ● 海のアクティビティ発信基地の整備

第五工区すなわち熱海港の護岸整備は、魅力ある熱海の海の発信基地として非常に重要な開発である。

開発の有り方について、現在熱海市が計画している案に提言を行うことは質の高めるためにも重要である。

熱海市内の外部環境から見てみると、平成28年に熱海駅ビルラスカ熱海並びに駅舎の改築が行われた。熱海のお土産が集まる施設の開業は、平地の少ない熱海市にとって観光

客のランドマークとなり連日にぎわいを見せている。また平成31年には熱海後樂園ホテル新館がオープン予定であり、その施設概要は温浴施設、マーケット施設を併設する96室を備えるものである。

このことを踏まえ我々は、これ以上のお土産としての商業施設の必要性はないと考える。今熱海の観光として必要とされていることは、その場所でしか体験できないことであり、コトを集め発信していくことが重要と考える。

#### ■■旅行先に期待するのは「その土地でしかできないこと」「日常から離れられる」■■

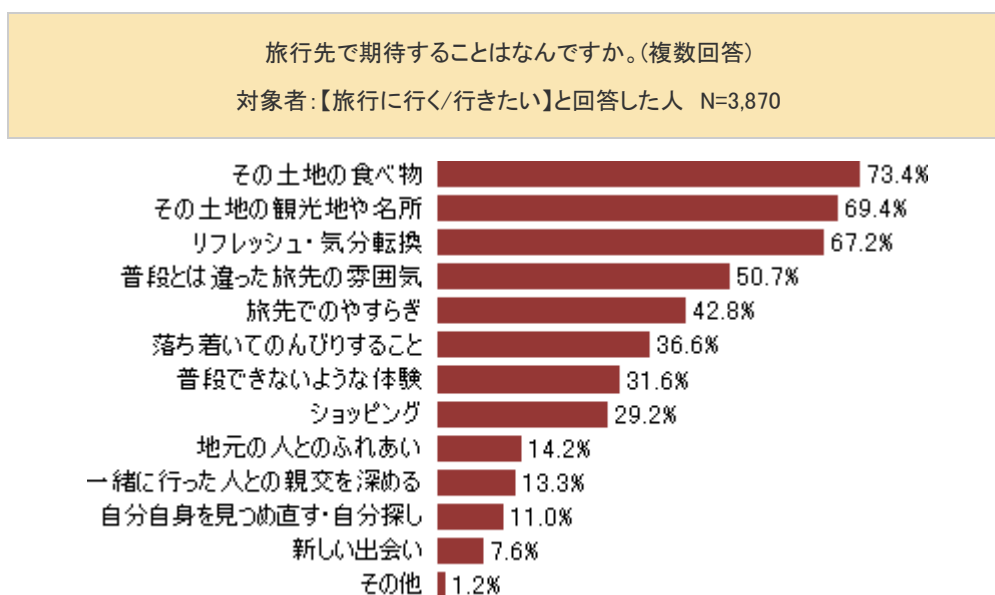
##### ■旅行先で期待すること

旅行先で期待することを尋ねた設問では、「その土地の食べ物」が最も多く73.4%であった。

次いで「その土地の観光地や名所」69.4%、「リフレッシュ・気分転換」67.2%、「普段とは違った旅先の雰囲気」50.7%、「旅先でのやすらぎ」42.8%であった。

旅行先に期待されることとしては、その土地でしか体験できないことが重視されているようだ。

また、日常から離れることで得られるものを旅行に期待する人も多いことが分かった。



インターワイヤード株式会社が運営するネットリサーチの DIMSDRIVE 調べ

2012年10月31日(水)～11月16日(金)

しかしながら第五工区では、サンビーチとの距離は比較的遠く、観光としての連携が計りにくい、そこで、熱海沖に防潮堤を追加で設け、沿岸部からの波の進入を今より抑え、現状の第一工区のヨットハーバーを第四工区もしくは第五工区に移設することを提案する。

その上で、第一工区に海のアクティビティ発信基地施設を洋上に設けることを提案する。具体的なアクティビティは、SAP、海上ヨガ、シーカヤック、シュノーケリング、一人乗りヨットなどモーターボート系ではなく、穏やかに海を利用できるものでサンビーチ遊泳可能エリアの沖を利用してもらう。そのことにより、海水浴客にも海の可能性を知ってもらうことができる。また施設では、ビーチ用遊び道具をレンタルするなど夏のシーズン以外にもビーチを使用してもらうことが期待でき、利便性は高まることになる。

第五工区では、ヨットや漁船の整備が出来る施設、アクティビティではジェットスキーなどのモーター系、船釣り、ダイビング、市場、飲食街などを設け外洋を利用できるようにしていく必要がある。

また七半岸壁には、スーパーヨットの設置可能施設を設け、熱海に三ツ星のお客様が来る為の施設を推進していくことが求められる。

更には、熱海を海から臨み見る機会が増えることにより、サンビーチのみではなく熱海の海岸線のイルミネーションを整備することを提案する。

イルミネーションを整備することで、実益効果（目を惹く、街の防犯、ムード演出）があり、夜間だと視認性が非常に高く広告塔になる。

また、冬にイルミネーションが多い理由にクリスマスがある。空気が澄んできる、夜が長い＝暗い時間が長いという理由があり人を集められる。ターゲットは家族連れ、若者が中心となる。

具体例では、伊東のぐらんぱる公園では、平成26年3月に「グランイルミ」を設け、冬場の観光客数が増加した。そのため熱海でも、イルミネーションを海辺に整備し、観光客数を増やし、街を活性化させたい。

熱海市の水源別有収水量および計画は、H28年度では下記表のとおりである。

### 水 源 一 覧

#### 自 己 水 源 一 覧 表

| 水系                    | 水 源 名           | 種 別 | 最大取水能力<br>( $\text{m}^3/\text{日}$ ) | 計画浄水量<br>( $\text{m}^3/\text{日}$ ) | 備 考<br>(P14「水系図」番号) |
|-----------------------|-----------------|-----|-------------------------------------|------------------------------------|---------------------|
| 泉<br>地<br>区           | 泉 水 源           | 表流水 | 2,850                               | 2,850                              | ①                   |
|                       | 日 金 沢 水 源       | 湧 水 | 700                                 | 700                                | ②                   |
|                       | 泉 地 区 計         |     | 3,550                               | 3,550                              |                     |
| 熱<br>海<br>地<br>区      | 伊 豆 山 水 源       | 表流水 | 2,700                               | (2,700)                            | H28.9認可変更           |
|                       | 丹 那 隧 道 水 源     | 湧 水 | 37,500                              | 15,000                             | H28.9認可変更 ③         |
|                       | 和 田 山 水 源       | 湧 水 | 1,000                               | 1,000                              | ④                   |
|                       | 和 田 山 1 号 水 源   | 深井戸 | 1,000                               | 1,000                              |                     |
|                       | 土 橋 水 源         | 深井戸 | 800                                 | 800                                | ⑤                   |
|                       | 不 動 隧 道 水 源     | 湧 水 | 1,800                               | 500                                | H28.9認可変更 ⑥         |
|                       | 小 石 ケ 沢 水 源     | 湧 水 | 900                                 | (900)                              | H28.9認可変更           |
|                       | 堰 下 水 源         | 湧 水 | 1,600                               | (1,600)                            | H28.9認可変更           |
|                       | 橋 戸 水 源         | 湧 水 | 760                                 | (760)                              | H28.9認可変更           |
|                       | 相 の 原 水 源       | 湧 水 | 540                                 | (540)                              | H28.9認可変更           |
|                       | 熱 海 地 区 計       |     | 48,600                              | 18,300                             |                     |
| 南<br>熱<br>海<br>地<br>区 | 宮 川 水 源         | 表流水 | 7,500                               | 6,500                              | H28.9認可変更 ⑦         |
|                       | 中 野 第 2 水 源     | 深井戸 | 2,600                               | 500                                | ⑧                   |
|                       | 下 多 賀 二 ノ 倉 水 源 | 湧 水 | 300                                 | 300                                | 下多賀高区水系 ⑨           |
|                       | 上 多 賀 水 源       | 湧 水 | 1,000                               | 520                                | H28.9認可変更 ⑩         |
|                       | 和 田 木 第 1 水 源   | 湧 水 | 800                                 | 450                                | ⑪                   |
|                       | 南 熱 海 地 区 計     |     | 12,200                              | 8,270                              |                     |
| 自 己 水 源 1 2 ケ 所       |                 |     | 64,350                              | 30,120                             |                     |

( )は浄水施設整備後の予定浄水量

#### 県 営 水 道 受 水 一 覧 表

| 水系                 | 水 源 名       | 種 別 | 最大受水量<br>( $\text{m}^3/\text{日}$ ) | 計画最大配水量<br>( $\text{m}^3/\text{日}$ ) | 備 考<br>(P14「水系図」番号) |
|--------------------|-------------|-----|------------------------------------|--------------------------------------|---------------------|
| 駿<br>豆             | 一 里 茶 屋 受 水 | 浄 水 | 28,800                             | 28,800                               | 柿田川第一水系 ⑫           |
|                    | 相 の 原 受 水   | 浄 水 | 31,200                             | 31,200                               | 柿田川第二水系 ⑬           |
| <b>県 水 受 水 2ヶ所</b> |             |     | <b>60,000</b>                      | <b>60,000</b>                        |                     |

|            |  |  |                |               |  |
|------------|--|--|----------------|---------------|--|
| <b>合 計</b> |  |  | <b>124,350</b> | <b>90,120</b> |  |
|------------|--|--|----------------|---------------|--|

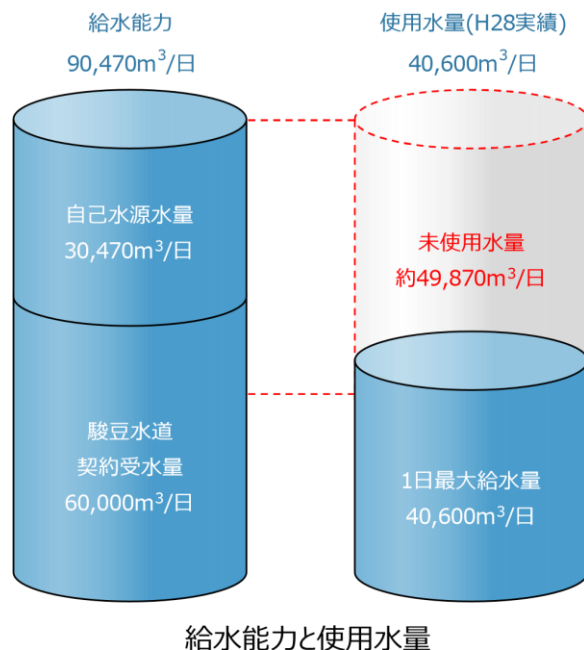
※ 1日最大給水量 47,400  $\text{m}^3/\text{日}$ とする。

※ 一覧は、熱海市全体の有収水量を示す。14箇所

しかしながら、実際の使用水量は大幅に少なく下記グラフのとおりであり、駿豆水道からの受水に着目すると、本市では駿豆水道との契約受水量6万  $\text{m}^3/\text{日}$ 分基本料金を負担



しており、受水費は収益的支出全体の約50%を占めている状況である。しかし、平成28年度の1日平均受水量は約1万 m<sup>3</sup>/日まで減少しており、契約受水量の大半が余剰水量となっている状況である。



現在の熱海市水道の抱える課題を整理すると

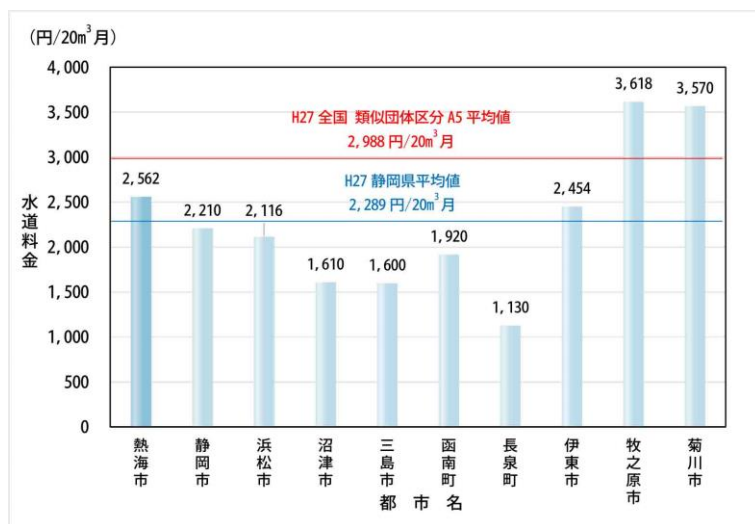
1. 県水が過去の契約のままとなっており、水道料金が全国平均と比較すると安い、県内他の自治体と比較して高い。

水道料金の比較(静岡県内)

| 都市名       | 水道料金<br>円/20m <sup>3</sup> 月 |
|-----------|------------------------------|
| 熱海市       | 2,562                        |
| 静岡市       | 2,210                        |
| 浜松市       | 2,116                        |
| 沼津市       | 1,610                        |
| 三島市       | 1,600                        |
| 函南町       | 1,920                        |
| 長泉町       | 1,130                        |
| 伊東市       | 2,454                        |
| 牧之原市      | 3,618                        |
| 菊川市       | 3,570                        |
| H27静岡県平均値 | 2,289                        |
| H27全国平均値  | 2,988                        |

※1 H27 静岡県水道の現況より

※2 H27 総務省 経営指標-類型区分 [B5]



2. 昭和22年から昭和56年の間に水道事業が拡大し、初期のものは劣化しつつあり、交換する為の費用が今後継続的にかかる。

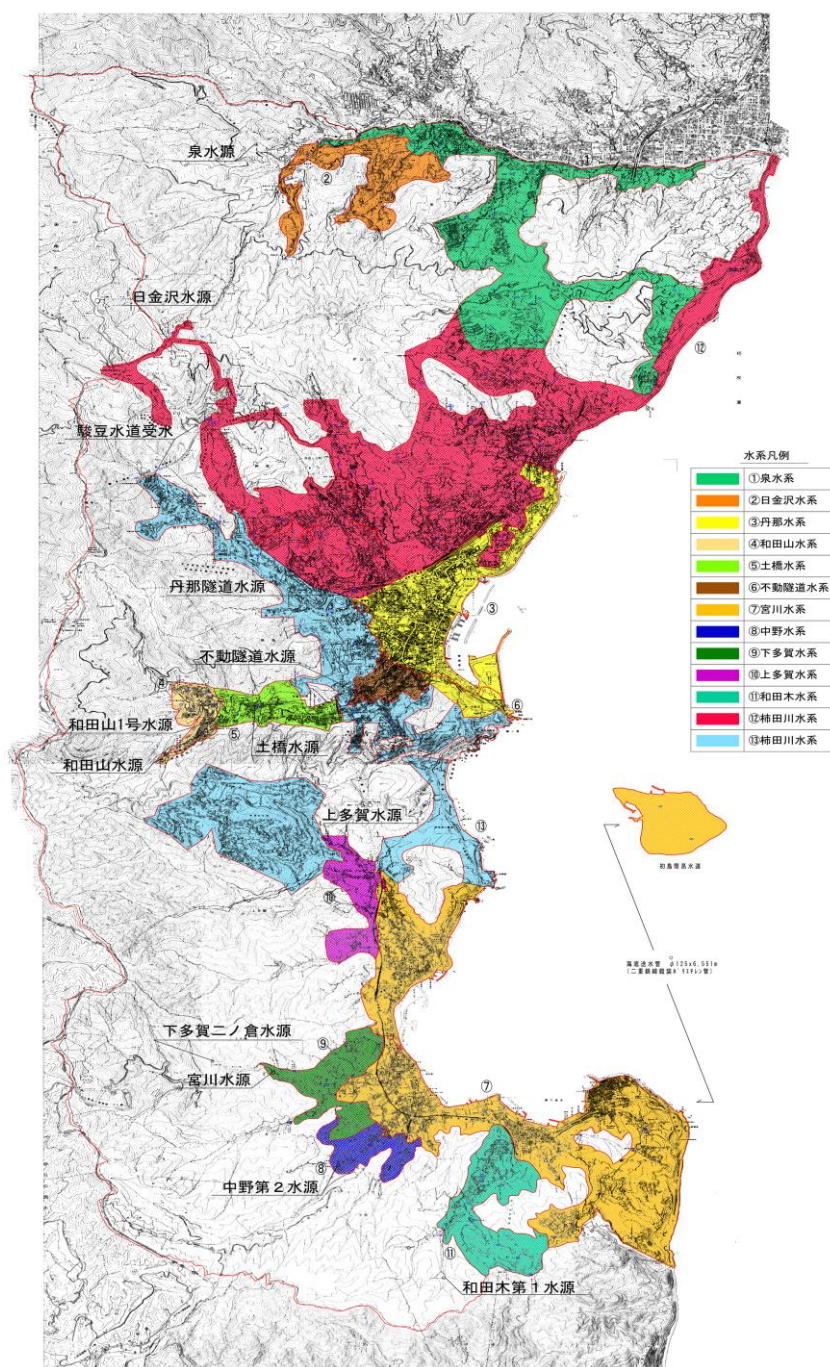
これらの課題を解決しつつ、熱海の魅力向上させることが必要である。

上記表のとおり、丹那水道は市全体の25%であるが、最大取水能力が年間13,687,500立米なので理論上は25%の利用量となっている。

そこで我々はこの丹那水道を最大限活かすべく、来宮エリアに「丹那湧水園」の設備を提言する。

まずは課題解決から検討すると、現在の丹那水道の配給範囲は地図のとおりとなっている。

熱 海 市 水 道 水 系 図 (現 状)



新設の水源や貯水槽・水道工事は必要なものの東部地区への配給範囲を拡張し、利用量を現在よりも20%上げる目標を掲げる。その他伊豆山地区など新規の水源の開発確保を



行い必要な11%を確保する。それにより県水の利用量を限りなく0%とすることを目的とする。頼らない水源を確保することにより民間運動を起こしやすく、県公営企業に対し訴えることが可能となる。

また、同時に県水の利用については、三島市函南町など共に利用しており。現在の基本料金が中心となる契約を変更し使用量を基本とした契約にしていくことを訴えることも検討する必要がある。最終的には県水に頼らない熱海市の自主水源の強化を目指すべきと考える。

契約の内容変更、使用量の減少ができた場合の財源は、老朽化した水道管の工事維持管理、新たな水源の確保にかかる予算に充当するべきであると考ええる。

他方、観光資源として丹那水道を検討すると、水資源と市所有の土地を利用し、「丹那湧水園」を整備することを併せて提言する。

提案エリアは地図の丹那水道トンネルから現在新設した貯水槽エリアとし、NHK「ブラタモリ」でも紹介された水源トンネルから水を出し地形の説明、遊歩道の設置、散策休憩所の設置などを整備する。

これにより、梅園と来宮神社の中間地点に観光名所が生まれ、名所を線で繋ぐことにより観光周遊性がより高くなると考える。



来宮駅航空写真

また、「丹那湧水園」による豊富な水資源のイメージは、観光客ばかりではなく、移住検討者、住民にとっても良く。安心なまちの印象をもたれることが可能である。

先ほどの検討から最大取水量に対して56%まで引き上げはしましたが、湧水園では14%を活用していきたいと考える。すなわち、14%は年間1,916,250立米であり、1日5250立米を使うことになる。

この水量を活用し、水源地としての観光利用を中心に梅園等同様の入園料、湧水をアピールする水源ポイントの設置、家庭用持ち帰り丹那水道配給所の設置、ペットボトル化検

討（タンクローリーで給水後外部委託で製造）等により観光収入化する方法も検討する必要があると考える。



給水所写真



ペットボトル写真

管理保全及び収益事業としていくには民間に市の土地を貸しだし、官民共働モデルとなるべきであると考えます。

## 施策2 広域な集客を可能にする交通インフラ整備

### ● 交通インフラ整備に関する重要性

#### 「鉄道」新幹線

現在熱海市はその宿泊者及び日帰り客の多くが関東のお客様である。今後ますます旅行における高速移動化および効率化は進むことは当然である。今後もお客様に選ばれる街にする為には、来街しやすい交通インフラ環境を継続的に整えていく必要がある。

過去に昭和39年新幹線開業以来10ヶ月間の新幹線各駅の1日の平均乗降客数を見ると、熱海駅は8,092人で、東京、新大阪、名古屋、京都について第5位となり、6位の静岡5,832人を大きく引き離しました。この来街者が劇的に増えた経験を踏まえると実質的な人の動きを左右するインフラの重要性は明らかである。



新幹線開通時のお迎え写真



新幹線降車の写真

単位:人

| 年次       | 区分 | 乗 客       |       | 降 客     |       |
|----------|----|-----------|-------|---------|-------|
|          |    | 人 数       | 1日平均  | 人 数     | 1日平均  |
| 大 正 14 年 |    | 387,265   | 1,061 | 371,205 | 1,017 |
| 昭 和 1 年  |    | 605,900   | 1,660 | 371,205 | 1,017 |
| 昭 和 2 年  |    | 525,210   | 1,435 | 499,224 | 1,364 |
|          |    |           |       |         |       |
| 昭 和 4 年  |    | 648,605   | 1,777 | 608,090 | 1,666 |
| 昭 和 5 年  |    | 582,540   | 1,596 | 565,020 | 1,548 |
| 昭 和 6 年  |    | 635,010   | 1,735 | 625,860 | 1,710 |
| 昭 和 7 年  |    | 706,275   | 1,935 | 691,675 | 1,895 |
| 昭 和 8 年  |    | 807,015   | 2,211 | 778,180 | 2,132 |
| 昭 和 9 年  |    | 1,044,265 | 2,861 | 988,785 | 2,709 |

※ 大正14年3月25日熱海駅開業(熱海線開通 熱海～小田原)

※ 昭和9年12月1日丹那トンネル開通に伴い、熱海線を廃止し東海道線となる。

| 年次       | 区分 | 乗 客        |        | 降 客        |        |
|----------|----|------------|--------|------------|--------|
|          |    | 人 数        | 1日平均   | 人 数        | 1日平均   |
| 昭 和 10 年 |    | 1,193,160  | 3,260  | 1,134,966  | 3,101  |
|          |    |            |        |            |        |
| 昭 和 12 年 |    | 1,302,685  | 3,569  | 1,265,455  | 3,467  |
| 昭 和 13 年 |    | 1,514,385  | 4,149  | 1,462,190  | 4,006  |
| 昭 和 14 年 |    | 1,843,176  | 5,036  | 1,756,800  | 4,800  |
| 昭 和 15 年 |    | 2,144,740  | 5,876  | 2,011,150  | 5,510  |
| 昭 和 16 年 |    | 2,293,295  | 6,283  | 2,128,680  | 5,832  |
| 昭 和 17 年 |    | 2,372,135  | 6,499  | 2,214,090  | 6,066  |
| 昭 和 18 年 |    | 2,510,394  | 6,859  | 2,180,262  | 5,957  |
| 昭 和 19 年 |    | 2,149,485  | 5,889  | 1,956,400  | 5,360  |
|          |    |            |        |            |        |
| 昭 和 22 年 |    | 4,347,714  | 11,879 | 4,812,168  | 13,148 |
| 昭 和 23 年 |    | 4,236,920  | 11,608 | 4,361,385  | 11,949 |
| 昭 和 24 年 |    | 3,075,490  | 8,426  | 2,925,110  | 8,014  |
| 昭 和 25 年 |    | 3,451,075  | 9,455  | 3,275,145  | 8,973  |
| 昭 和 26 年 |    | 3,942,918  | 10,773 | 3,687,450  | 10,075 |
| 昭 和 27 年 |    | 4,272,690  | 11,706 | 3,753,660  | 10,284 |
|          |    |            |        |            |        |
| 昭 和 33 年 |    | 8,000,413  | 21,919 | 7,843,070  | 21,488 |
| 昭 和 34 年 |    | 8,510,217  | 23,316 | 8,555,054  | 23,439 |
| 昭 和 35 年 |    | 10,016,040 | 27,441 | 9,525,384  | 26,097 |
| 昭 和 36 年 |    | 11,050,796 | 30,276 | 10,783,618 | 29,544 |



| 年次<br>区分 | 乗 客        |        | 降 客        |        |
|----------|------------|--------|------------|--------|
|          | 人 数        | 1日平均   | 人 数        | 1日平均   |
| 昭 和 39 年 | 11,731,710 | 32,142 | 12,048,835 | 32,928 |
| 昭 和 40 年 | 13,017,615 | 35,665 | 13,459,523 | 36,875 |
| 昭 和 41 年 | 14,010,103 | 43,750 | 14,178,675 | 44,285 |
| 昭 和 42 年 | 14,320,645 | 44,664 | 13,637,764 | 42,891 |
| 昭 和 43 年 | 14,675,040 | 45,417 | 14,039,711 | 44,064 |
| 昭 和 44 年 | 14,032,554 | 43,318 | 14,747,150 | 45,512 |
| 昭 和 45 年 | 14,161,472 | 43,429 | 14,394,290 | 44,395 |
| 昭 和 46 年 | 14,889,728 | 45,515 | 16,100,073 | 49,114 |
| 昭 和 47 年 | 15,194,860 | 41,630 | 15,575,660 | 42,673 |
| 昭 和 48 年 | 17,642,552 | 48,336 | 16,156,509 | 44,264 |
| 昭 和 49 年 | 17,424,323 | 47,738 | 16,011,163 | 43,866 |
| 昭 和 50 年 | 16,975,789 | 46,506 | 17,178,832 | 47,065 |
| 昭 和 51 年 | 18,187,735 | 49,829 | 16,036,391 | 43,935 |
| 昭 和 52 年 | 20,639,873 | 56,548 | 16,927,680 | 46,377 |
| 昭 和 53 年 | 19,606,597 | 53,716 | 16,683,825 | 45,709 |
| 昭 和 54 年 | 23,610,288 | 64,686 | 19,241,458 | 52,716 |
| 昭 和 55 年 | 23,241,779 | 63,676 | 19,758,160 | 54,132 |
| 昭 和 56 年 | 20,404,362 | 55,902 | 17,019,794 | 46,630 |
| 昭 和 57 年 | 16,313,457 | 44,694 | 18,378,810 | 50,353 |
| 昭 和 58 年 | 16,343,993 | 44,778 | 18,343,841 | 50,271 |
| 昭 和 59 年 | 16,303,937 | 44,668 | 18,386,795 | 50,375 |
| 昭 和 60 年 | 16,594,316 | 45,464 | 15,478,599 | 42,407 |
| 昭 和 61 年 | 16,981,739 | 46,525 | 16,582,249 | 45,431 |
| 昭 和 62 年 | 17,157,654 | 47,007 | 17,046,481 | 46,703 |
| 昭 和 63 年 | 16,731,636 | 45,840 | 15,892,247 | 43,368 |
| 平 成 元 年  | 16,827,618 | 46,103 | 15,535,460 | 42,563 |
| 平 成 2 年  | 17,177,715 | 47,062 | 15,914,948 | 43,603 |
| 平 成 3 年  | 17,196,712 | 47,114 | 15,546,785 | 42,594 |
| 平 成 4 年  | 14,475,508 | 39,659 | 13,443,707 | 36,832 |
| 平 成 5 年  | 11,665,073 | 31,959 | 12,587,906 | 34,487 |
| 平 成 6 年  | 9,447,660  | 25,884 |            |        |
| 平 成 7 年  | 8,997,250  | 24,650 |            |        |
| 平 成 8 年  | 6,410,442  | 17,514 | 6,654,333  | 18,173 |
| 平 成 9 年  | 6,168,273  | 16,899 | 6,386,242  | 17,497 |
| 平 成 10 年 | 4,803,971  | 13,162 | 4,414,844  | 12,095 |
| 平 成 11 年 | 4,223,507  | 11,571 | 3,780,167  | 10,357 |
| 平 成 12 年 | 4,082,175  | 11,184 | 3,633,397  | 9,955  |
| 平 成 13 年 | 4,060,962  | 11,126 | 3,638,640  | 9,969  |
| 平 成 14 年 | 3,928,544  | 10,763 | 3,520,155  | 9,644  |

表：JR 熱海駅乗降客数



今後、熱海市の来街者の増加を検討していくために、西日本からのお客様の獲得が必要であるとする。現在の鉄道交通網では、東海道新幹線「ひかり」が1日に3本止まるに留まっている。と同時に、東海道新幹線「のぞみ」は県内に停車駅すらない。

JR東日本 駅の時刻表

| 熱海駅 東海道・山陽新幹線 東京方面 (上り) |                               |
|-------------------------|-------------------------------|
| 時                       | 平日                            |
| 6                       | こ こ<br>35 53                  |
| 7                       | こ こ 新<br>05・ 15 24・ 32 43 57・ |
| 8                       | こ こ 新<br>09・ 20 38 58         |
| 9                       | こ こ<br>29 59                  |
| 10                      | こ こ<br>31 59                  |
| 11                      | ひ こ こ<br>02 29 59             |
| 12                      | こ こ<br>31 59                  |
| 13                      | ひ こ こ<br>02 29 59             |
| 14                      | こ こ<br>31 59                  |
| 15                      | こ こ<br>29 59                  |
| 16                      | こ こ<br>31 59                  |
| 17                      | こ こ<br>29 59                  |
| 18                      | こ こ<br>31 59                  |
| 19                      | ひ こ こ<br>02 29 59             |
| 20                      | こ こ<br>31 59                  |
| 21                      | こ こ<br>29 59                  |
| 22                      | こ<br>28                       |

列車種別・列車名： ひ=ひかり こ=こだま

行き先・経由： 熱海→東京

変更・注意マーク： (斜体)◆=運転日注意  
(運転日・運転時刻・運転区間等の詳細はホームページをご覧ください、駅社員にお尋ねください)

JR東日本 駅の時刻表

| 熱海駅 東海道・山陽新幹線 静岡・名古屋・新大阪方面 (下り) |                         |
|---------------------------------|-------------------------|
| 時                               | 平日                      |
| 7                               | こ こ 新<br>17 44          |
| 8                               | こ こ 新<br>12 44          |
| 9                               | こ こ 新<br>14 45          |
| 10                              | こ ひ 新 こ 新<br>12 42 45   |
| 11                              | こ こ 新<br>15 45          |
| 12                              | こ こ 新<br>12 45          |
| 13                              | こ こ 新<br>15 45          |
| 14                              | こ こ 新<br>12 45          |
| 15                              | こ こ 新<br>15 45          |
| 16                              | こ ひ 新 こ 新<br>12 42 45   |
| 17                              | こ こ<br>15 45            |
| 18                              | こ ひ 新 こ<br>12 41 44     |
| 19                              | こ こ 新 こ<br>14 21 44     |
| 20                              | こ 新 こ 新 こ<br>14 21・ 45  |
| 21                              | こ こ 新<br>15 43          |
| 22                              | こ 新 こ 新 こ 新<br>04 30 54 |
| 23                              | こ 新<br>32               |

列車種別・列車名： ひ=ひかり こ=こだま

行き先・経由： 熱海→名古屋 新→新大阪 三→三島 静→静岡 岡→岡山 浜→浜松

変更・注意マーク： (斜体)◆=運転日注意  
(運転日・運転時刻・運転区間等の詳細はホームページをご覧ください、駅社員にお尋ねください)

## 熱海駅新幹線時刻表

そこで、熱海市における東海道新幹線「のぞみ」停車を提言する。

伊豆の玄関である熱海に「のぞみ」が停車することは、伊豆全体への経済効果は明らかである。現在の博多新横浜間の時間は4時間44分である。仮に熱海に停車することを想定すると、4時間15分ほどで博多から熱海に来ることが可能となる。

停車時間としては、現在の「ひかり」の停車する時間帯が望ましいと考える。

午前11時着、午後14時着が非常に有効である。午前11時であれば、チェックイン前のランチの需要をしっかりと取り込むことが出来熱海の味を体験することが可能である。午後14時であれば、宿泊施設のチェックインのピークより少し前に到着することが出来るためスムーズな熱海の観光を行うことが可能である。

熱海での停車のメリットは、起点となる事が可能で富士山、伊豆ジオパーク、箱根など観光の幅の広がる事が可能である。

同時に可能にするためには課題もある。現在のJR熱海駅は、東海道本線はJR東海、東海道新幹線はJR東日本の2社による管理がなされている。是非どちらかに統一して頂き、統一した土地の管理を可能とし、熱海駅の改修を検討し東海道新幹線路線の複線化もあわせて提言する。複線化はすなわち退避線であり、ダイヤ作成には必要な条件となる。そのことにより東西への避難路線の確保にもつながり、莫大な観光客数を抱える熱海市として

の安全安心は向上する。そのうえで「のぞみ」の停車も可能であるとする。

#### 「道路」ビーチライン

熱海市と湯河原町を繋ぐ私営道路である熱海ビーチラインは、2018年7月末に上陸した逆行台風と言われた台風12号による影響で8月に1ヶ月間を超える長期休業を余儀なくされた。そのことによる国道135線は、大きな渋滞を引き起こし観光繁忙期における観光客、近隣市民に多大な影響が出た。



ビーチライン被害状況写真

防災の観点からも関東への道路ライフラインとして非常に重要であり、熱海市にとって重要な道路であることは明白である。この熱海ビーチラインの国道化を提言する。

国有化することにより護岸整備にかかる費用の確保、定期的なテトラポットなどのメンテナンス、災害時に迅速な修繕が行われ、影響を最小限にすることが重要と考える。

#### 「道路」伊豆縦貫道熱海函南線の接続

現在下田までの延長工事が行われている伊豆縦貫道は、当初の計画にある熱海函南線のいわゆる枝の部分について、今現在も着工されていない。



函南航空写真



伊豆縦貫道計画図

関西方面から高速道路を使用した来街者への利便性の向上は、早急に図られる必要がある。またこの接続は市民にとっても非常に重要な道路である。それは、熱海市にとって重大な救急案件が発生した場合に、長岡にある順天堂大学付属病院に搬送されることが多くある。接続することにより搬送時間の短縮が大いに図られることは明白である。

以上の事からも縦貫道の計画通りに熱海函南線の接続を進めるべきと考える。

### 施策3 公共空間利用促進へのガイドラインの作成

熱海市は他の市町と比較しても平地の面積が非常に少なく、街中では住宅商店が密集し道路幅が非常に狭く、同様に歩道幅も非常に狭い。

公共空間が最大の遊休不動産であると考え、どれだけ歩行者を優先したまちをデザインするかは重要ではあるが、同時に伊豆の玄関である熱海にとって伊豆観光の大渋滞を引き起こす可能性があるため難しい問題である。

しかしながら中心市街地では、今後徒歩での回遊性を高める必要がある。その中で道路を車のみが使用するのではなく、歩行者や商店も利用できるようなガイドラインを考えていく必要があると考える。車は通れるが速度は限りなく歩行スピードであり、歩行者は歩道をなくしフラットで歩きやすい道を歩く。共存することのできる中心市街地を提言する。

また、景観からも電柱の地中化を進め、歩道の確保と空間美化に努めていくことも重要であると考え。

## IV. 住人満足度向上に向けた提言

### 施策1 新規起業の起きる仕組みの提言

#### ● スタートアップ支援

#### 新規起業の起こる仕組みづくり

#### 新規起業支援施設の提供

現在熱海市は、平成27年国勢調査の結果で、高齢化率（65歳以上の人口割合）が44.7%に達し、市民の半数は60歳以上となっている。本格的な超高齢社会の到来を迎える中で、活力ある社会を構築し、熱海市の経済を活性化していくには、若者や移住者が自ら起業できるような新たな環境を整備し、起業者を支援することで、人口増加や新たな雇用を生みだし熱海市の経済活性化と循環をしなければならない。

他県では廃校になった校舎を再活用した地方活性化の拠点としたスタートアップ支援施設である場の提供があります。そこでは、シェアオフィス、スタートアップカフェ、イベントスペース、DIYスタジオ、コミュニティスペースなどもあり、また支援内容には、経営ノウハウの提供・資金調達支援・セミナー・イベントの開催など新たな環境を整備している。

そこで、創業しやすい環境づくりの推進のために熱海市の遊休公共施設などを再活用し、

熱海市の経済活性化の拠点にすることを提言する。

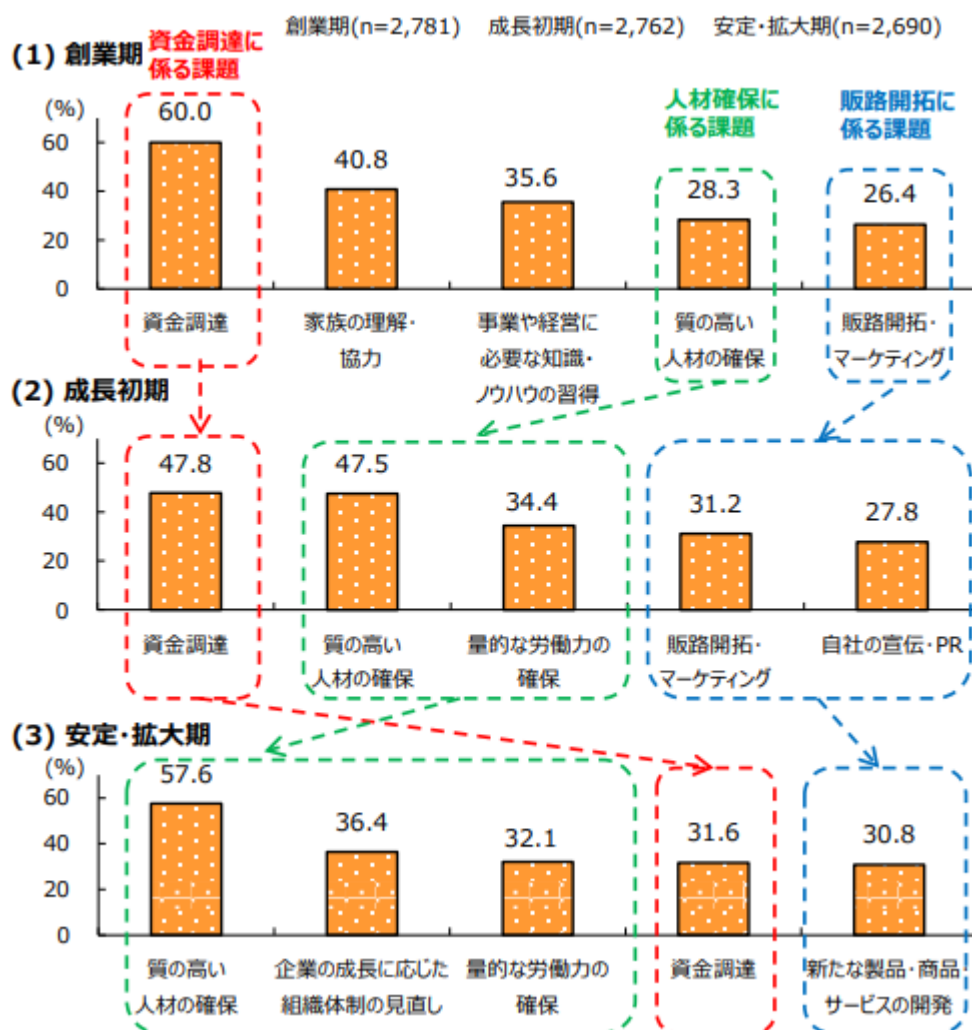
熱海は首都圏から近く交通の便も良く、海・山等自然があふれているため、熱海と都内の二拠点暮らしをしながら、疲れも癒す第二拠点とすることも出来ると考える。

首都圏での暮らしの中でしか生まれないアイデアを生かしてもらい、また熱海の特産品を活用してくれるビジネスモデルを行うことにより、熱海市の経済の活性化、雇用も生まれる。熱海でしかできないビジネスモデルの確立にも繋がる。

運営方法については、現在運営しているスタートアップ支援施設等の運営方法また、創業・成長段階ごとの各課題（資料1、2、3参照）を専門家等、相談し熱海市らしい新規起業支援施設の提供を行うことを提言する。

（資料1）

創業・成長段階ごとの課題



中小企業庁委託「起業・創業に関する実態調査」

(2016年11月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))



## (資料2)

### 資金調達に係る課題

#### 解決策一例

1. 補助金の活用
2. 融資制度の活用
3. クラウドファンディングの活用
4. 投資家の活用（投資家の集まる仕組み作りが必要）

新商品の提供する場合、クラウドファンディングを活用することで、提供する商品が売れるかの判断材料及びマーケティング調査の方法にもなると考える。

### 人材確保に係る課題

#### 解決策一例

熱海市では市民の半数以上が60歳以上のため、個人の経験・知識はあるので質の高い人材が確保できる環境にある。また、雇用する会社が働きやすい環境を整備することにより副業を望む人材確保も可能であると考ええる。

また、現状で求人広告の効果が発揮されていない場合があるため、熱海市ネットワークコミュニティアプリ等の作成、住民が登録してくれる環境整備を行うことにより、ネットワークコミュニティ構築の効果・拡散は大きくすることが可能である。

### 販路開拓に係る課題

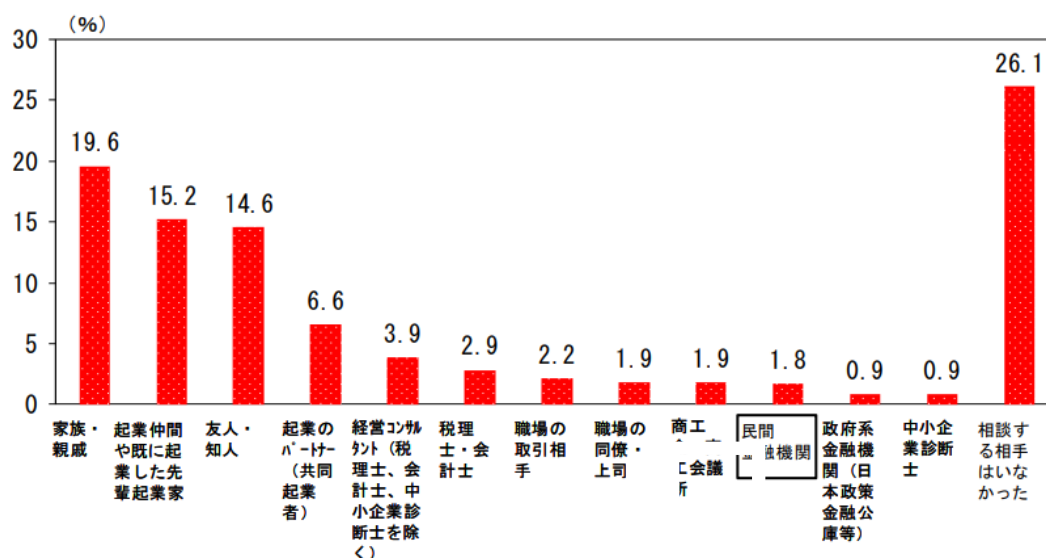
#### 解決策一例

販路開拓では商品を多くの人に知ってもらうことが重要であるため、ネットワーク（ホームページ、SNS、YouTube、LINE@、独自アプリ、ライブコマース等）を活用し、拡散する方法が必要と考える。スマートフォンの所有率は78.9%ある。（メディア定点調査2018）

## (資料3)

### 起業を考える前段階の課題

【起業に関する相談相手】



（出所）中小企業白書（2014年版）から一部加工

一部統計資料の結果、【相談する相手はいなかった】という回答が多い。その結果、起業をあきらめる人も多い。

そのため、新規起業支援施設では、起業にあたり相談できる環境整備が必要である。

#### 解決策の一例（スモールコミュニティの推進）

現在、熱海市内にもスモールコミュニティがありますが、スモールコミュニティのとりまとめが行われていない。同じように多くの熱海市民同士の交流も同じ可能性があると考ええる。そのため、広報熱海やネットワーク（マッチングサイトの作成など）を活用し各コミュニティの告知やイベントなどを行うことで、スモールコミュニティが存在することを認知してもらうことで、コミュニティの拡大や新たなスモールコミュニティの誕生、コミュニティ同士の横の繋がりを作ることが重要であると考ええる。その中で相談できる人や一緒に起業する仲間が出来る可能性が高くなる。

新規起業をする上で、現在働いている収入がなくなる不安は大きい中、小さく副業から始めて起業者を目指せるコミュニティがあることも重要であると考ええる。

### 施策2 若年層がいきいきと働き住むことができる街の提言

#### ● スモールコミュニティの推進、横の連携をサポート

前述でも一部提案をしているが、新規起業での課題の中には、街にある既存のコミュニティといかに協力関係を築きながらビジネスを継続していくことができるということも非常に重要である。

既存の事業主は、新規での出店企業が出てくれることを希望しているにもかかわらず、出店後にはコミュニケーションというよりも、自分の事業に対して影響を与えるかどうかに関心を持つことが多い。

その緩衝となるためには、既存のコミュニティへの参加のしやすい環境、また、各コミュニティ同士のつながりを持つことが重要であると考ええる。

そのために横断的に使用できコミュニティ同士が意見交換をしやすい協働スペースを設けることを提言する。

交流人口を活発化させることは、情報交換やコミュニティ同士の親密性に効果的である。

### 3. 課題解決の提言

#### I. 超高齢社会でも安心して暮らす街

##### 施策1 健康年齢増進への取組支援

#### ● スポーツ運動成果への支援

高齢社会の先進モデル地域である熱海市は、年々膨らむ社会保障費をいかに減少できるかが重要な課題である。

| 推計1A 年齢階層別人口割合 |           |       | 県内市町別 |            |       |       |           |       |       |                       |       | (単位:96) |                      |       |       |  |  |
|----------------|-----------|-------|-------|------------|-------|-------|-----------|-------|-------|-----------------------|-------|---------|----------------------|-------|-------|--|--|
| 市町             | 0-14歳人口割合 |       |       | 15-64歳人口割合 |       |       | 65歳以上人口割合 |       |       | 65-74歳人口割合<br>(前期高齢者) |       |         | 75歳以上人口割合<br>(後期高齢者) |       |       |  |  |
|                | 平成22年     | 平成37年 | 平成52年 | 平成22年      | 平成37年 | 平成52年 | 平成22年     | 平成37年 | 平成52年 | 平成22年                 | 平成37年 | 平成52年   | 平成22年                | 平成37年 | 平成52年 |  |  |
|                | 2010年     | 2025年 | 2040年 | 2010年      | 2025年 | 2040年 | 2010年     | 2025年 | 2040年 | 2010年                 | 2025年 | 2040年   | 2010年                | 2025年 | 2040年 |  |  |
| 1 静岡市          | 12.9      | 11.3  | 10.9  | 62.4       | 57.1  | 52.7  | 24.7      | 31.6  | 36.4  | 13.0                  | 12.3  | 15.3    | 11.7                 | 19.2  | 21.1  |  |  |
| 2 浜松市          | 14.8      | 13.2  | 12.5  | 61.3       | 54.8  | 50.5  | 23.9      | 32.1  | 37.0  | 12.2                  | 12.9  | 15.1    | 11.8                 | 19.1  | 22.0  |  |  |
| 3 沼津市          | 12.8      | 11.4  | 11.4  | 62.6       | 56.2  | 51.1  | 24.6      | 32.3  | 37.6  | 13.2                  | 13.1  | 15.9    | 11.4                 | 19.3  | 21.7  |  |  |
| 4 熱海市          | 8.1       | 7.3   | 7.5   | 53.3       | 46.0  | 43.0  | 38.6      | 46.6  | 49.6  | 19.7                  | 15.3  | 19.3    | 18.9                 | 31.3  | 30.3  |  |  |
| 5 三島市          | 13.5      | 11.4  | 11.2  | 63.7       | 57.9  | 52.2  | 22.8      | 30.7  | 36.7  | 12.6                  | 12.5  | 15.4    | 10.2                 | 18.2  | 21.3  |  |  |
| 6 富士宮市         | 14.3      | 12.8  | 12.7  | 63.1       | 56.8  | 53.1  | 22.6      | 30.4  | 34.2  | 12.1                  | 13.0  | 14.5    | 10.5                 | 17.4  | 19.7  |  |  |

現在コミュニティとしてさまざまなスポーツを行う団体・企業が市内にはある。それぞれの施設を社会福祉コミュニティでつなぎ、健康になってポイント還元を行う仕組み「スポーツ健康ラリー」を提言する。

コミュニティ所属には、運動の内容、量、など運動の記録を義務付けその代わりに参加した高齢者にスタンプラリーを行い、市内商店で使用できる商品券と引き換えの出来る制度である。

社会福祉の分野だけでなく生涯学習として横断的に管理し、運営することにより高齢者の社会保障費削減につなげていくことが望ましいと考える。

## II. 労働力不足への提言

我々の住むこの熱海は、相模湾に面し背面を山に囲まれ、自然豊かな土地であると言える。古くより観光を主産業とし、歓楽温泉として栄華を誇ったことから、他地方の同様なあるいは有名な温泉街や温泉郷が「〇〇の熱海」と宣伝したり、そう呼ばれたりしたことがある。

これらの温泉街も熱海温泉と同様に、バブル経済の崩壊、レジャーの多様化などの事情により客離れが進み、現状の温泉街を評して「かつて『〇〇の熱海』と呼ばれた××温泉は……」との文脈で語られる例も見られるようになった。

この様に、熱海に限らず日本中が一極集中をし、地方では人口減少が課題となっている。

そこで、労働力不足への取組として次の提言をする。

### 施策1 住宅環境の支援への提言

かつての熱海は丹那トンネル施工に伴い住まいとして、宮西団地・相の原団地が、旅館ホテルの社員向けに笹良ヶ台団地などが市営住宅として建設されてきた、仕事の増加に合わせ供給を行ったが、当時必要で建設された団地も旅館ホテルの減少に伴い、需要が無くなり、また子供世代は新たに住居を建て団地を出た結果、単身世帯中心の超高齢化団地となった。

それら公営の雇用促進住宅の基準の見直しや住環境整備を行う上でベースとなる建物の基準が整備されていないと、大がかりな改修が必要となってしまう。リノベーション工事

を行い生まれ変わらせるか、統廃合をしていくかが重要な課題である。

高齢者先進地域の熱海市としては、高齢者及び障害者の方々を積極的に雇用することは重要なことである。そして空き地や公営住宅などを有効利用し、障害者の方々が住めるようバリアフリーの整備をした障害者専用の住宅などを設置する事により、熱海への移住を検討いただくと同時に障害者雇用先進都市を目指すことも可能ではないであろうか。同時に近隣敷地に対して、就業施設の併設も市内交通環境を考えると重要である。

設計施工に対しては市の責任の下に監査を行い、適切な予算での執行がなされているかを見定め、有識者による市民オンブズマンの設立をし、予算削減に努める。

熱海は観光宿泊・サービス業が主産業になっている為、休日の勤務、長時間拘束の労働、夜間の勤務など就労者を呼び込む事、又居住を選んでもらう事が難しい。

コンパクトシティと言う方針を掲げているが、具体的な解決策はなかなか見いだせない。そこで中心市街地の空き家や2階などの空室率が高い為、事務所や1世帯住宅などの用途が住居を含むものであってもシェアハウスや住居として用途変更することに対して、横断的、アドバイス支援、補助金を出してでも取り組むべき問題である。その際のリフォーム補助金についても簡素化された手続きが必要である。

以上をもとに観光を幹とした産業を中心とした業種に就労者を呼び込むには、団地や空室の対策が急務である為、補助金等の充実に努める必要がある。

働く場所や選択肢が少ない、生活での固定費が高いことから、人口が流出していく、もしくは流入が少ないことにより新たな投資が望めないという、負のスパイラルのどれか一つを改善し、少しずつ良い流れにする事が近々の課題である。

## 施策2 外国人労働者支援とマッチング

外国人労働者については、海外に出向いて就労者を探すことよりも、自治体や商工会議所に外国人向けの就労支援室などを設置する事により、地元企業の予算削減や効率化に努める必要がある。

現在熱海市では、中国珠海市を友好都市とし、大分県別府市・ポルトガル・カスカイス市・イタリア・サンレモ市との姉妹都市提携を結んでいる。

その他にも市内各種団体がそれぞれ姉妹提携を結んでいる都市があるが、この姉妹提携を結んでいる事を知らない市民が多くいる為、お互いに各市民への周知徹底をさせ、これらの都市との交流を積極的に行い、提携都市からの労働者へは住宅手当などの助成金、補助金を充実させるなど、友好関係を人的資源の確保にも役立てることを考えることも重要である。

観光ビジネスの慢性的な人手不足を外国人就労希望者へアプローチしていくために、熱海でおもてなしをする外国人就労者の動画作成など実際的な日本就労が見える化していくことも必要であると考ええる。自治体としての繋がりをより深化させていくことは非常に有意義な姉妹都市関係であると考ええる。

また、熱海国際専門学校との協力関係を作り、教育と就労をより支援できる体制を整え



る。外国人労働者を専門に扱う企業と市が提携をすることにより、斡旋がスムーズに行えるようにしていく。まずは主産業である旅館ホテル等の宿泊施設関係を中心に斡旋を行って行き、関連した裾野を広げていく。

### III. 大規模災害における備えの提言

#### 施策1 常設避難所の設置の提言

- ・日本国内における災害時の課題

我が国日本は世界的に見ても災害の多い国になり、喜べることではないが、結果として自衛隊をはじめとする災害救助の技術力、インフラの早期復旧の技術力などは世界屈指のレベルに達しており、他国で起きた災害などでも活躍し世界的に認められているところである。

しかしながら避難所の運営に関しては非常に遅れている。

- ・諸外国と比較した避難所運営の違い

#### ○過去の災害時における我が国の避難所風景



東日本大震災



西日本豪雨災害

東日本大震災の頃と比較をすると西日本豪雨災害の際にはプライバシー保護などの工夫がされるようになったが、当時の資料を確認する限り全ての避難所で仕切りなどが設けら

れていたわけではなく、多くの被災者がプライバシーのない空間での共同生活を強いられている。

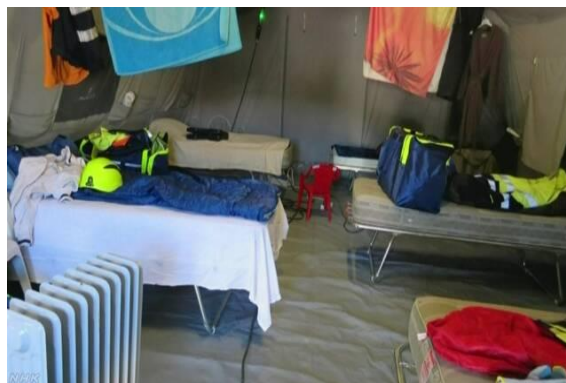
### ○外国の避難所の様子



カトリーナハリケーンの避難所の様子(アメリカ)



イタリアの避難所の様子



国によって差はあるが個人・家庭の生活スペースが確保されている避難所も存在する。  
国民性の違いや国土の違いなどもあるが、日本は避難所に関しては諸外国よりも遅れていると結論付けることができる。

ここで重要となってくるのが「諸外国と比べて遅れている」から避難所の在り方を見直すということではなく、被災により心身ともに疲弊をしている状態を少しでもより良い方向へ向かわせるため快適な避難所の設営が必要不可欠であり、我が国の避難所運営はそれを実現できていないと自覚をすることが重要である。

### ・避難所運営で最低限満たすべき「スフィア基準」

「スフィア基準」は、アフリカ・ルワンダの難民キャンプで多くの人が亡くなったことを受けて、国際赤十字などが20年前に制作したものである。

その後、災害の避難所にも使われるようになり、紛争や災害の際の避難所の環境について、“最低限の基準”を定めている。

## ○1人あたりのスペースは、最低3.5平方メートル確保すること

人間が寝返りをするなど最低限必要とされているスペースで過去の事例ではこの半分程度しか確保できていなかった避難所も多い。

あくまでも「最低限」であるため6平方メートル程度のスペースの確保を避難所設営の目安として考える。

参考に既に取り壊してしまった旧小嵐中学校の体育館面積が1528平方メートルなので、スフィア基準では約400名、6平方メートルを基準とすると約250名となる。市内の学校の体育館は大きいサイズだとほぼ同じサイズの1500平方メートル、小さい学校では1000平方メートル以下の体育館もある。

仮に1200平方メートルと設定し6つの小学校(初島・泉を除く)、3つの中学校(初島・泉を除く、小嵐を含める)、熱海高等学校の計10棟の体育館を使用した場合、スフィア基準であれば約3400人、6平方メートル基準であれば約2000人の収容人数となる。

熱海市は市民だけではなく観光客も滞在している街になるため、目標値とする6平方メートルはもちろん、スフィア基準であっても収容可能人数が極めて少ないと言える。もちろん他の公共施設なども避難所として開放されるが、それを踏まえても十分な場所が確保できているとは言えないのが現状である。

## ○トイレは20人に1つ

こちらも体育館の収容人数だけで計算した場合基準を満たしていることにはなるが、教室などを避難所として開放した場合には数が足りなくなる。また、学校であるため災害からしばらく経過した場合には授業の再開などもある。観光客の被災者がそれぞれの家庭に戻れたとしても市内在住の家を失った被災者などは、引き続き体育館での生活をする事となる。児童と被災者の共同利用になると数は足りなくなる。

### ・問題解決のための提言「廃校・廃施設を常設避難所として運営」

快適に生活できる避難所、観光客を含めた収容場所の確保。これらの実現の為「今後の統廃合施設・既存の廃施設を常設避難所として運営」を提言する。

現在いくつかの公共施設が使われないまま閉鎖・解体している状態にあり、これらの有効活用をすることで上記問題の解決の一助になるのではないかと考える。

#### 1. 常設の避難所という概念の創造

これまで避難所というのは災害が起きてから設置をするのが当たり前である。結果として仕切りのない共同生活で、個人スペースを確保できないなどの問題が浮上する構図となる。

特に観光地である熱海市においてはより多くの困難が生まれることも予想される。災害発生後に観光客に避難を支持しても土地勘のない観光客の方に避難所となっている小学校

を説明してもたどり着くまで時間がかかる。また、たどり着けたとしても満員になり他の小学校へ誘導されるなどのケースも発生する。

常設避難所の設置により、地域住人はそれぞれ指定の学校へ、観光客は常設避難所へ避難を促すよう事前に取り決めておくことにより、こういった問題は発生しにくくなる。また常設避難所を設置・運営することで「安心安全に観光に来ていただける街」という観光都市としての責任を果たすことにもなると考える。

また常設避難所は災害の多い我が国において各市町村が取り組むべき事業でもあり熱海がケースモデルとして発信していく事は非常に重要であると考ええる。

## 2. 建物の再利用

現在利用をしていない建物を再利用することで、比較的低予算で実現が可能ではないかと考える。

少年自然の家などは耐震問題もあるため改修が必要となるが「宿泊施設」としての再利用ではなく「常設の避難所」という利用目的であれば県や国からの補助も出やすい。使っていない施設の利用方法としては十分有効な活用方法であると考ええる。

## 3. 今後の政策進行の為にも有効

少子化が進み、現在学年別生徒数が一桁の学校も増えてきている。合併の決断をするのもそう遠くない話である。「合併後、校舎は常設避難所として活用する」ことで合併に対して保護者からの理解も得やすくなる。

また同様に閉鎖予定施設などでも今後の利用目的を明確にすることで理解を得やすくなる。

## 4. 具体的な計画案

すでに解体をしてしまったが旧小嵐中学校を常設避難所として作り替えた場合、校舎の面積が約6000平方メートルあるので改築の方法にもよるが、約700名程度の收容能力がある。4階を避難所として活用し、残りを物資保管庫とした場合2800名近く收容が可能、体育館は前述のとおり250名の收容スペースになるため、約3000名を收容できる避難所として運営が可能。あくまでも1人6平方メートルでの計算であるため、スフィア基準で換算すると約5000人は收容が可能となる。同様の施設を二つ用意することができれば宿泊観光客10000人をカバーできる避難所として機能することが可能である。

どこまでの改築を行うか、こういった形態を目指すかの検討は今後必要になるとは思いますが既存の廃施設などを避難所として活用することは十分に意味のあることではないかと考える。



## ※ 現状との比較

現状の市内の全ての体育館利用 : スフィア基準で約 3 4 0 0 名

学校規模の全面改築を施工した場合 : スフィア基準で約 5 0 0 0 名

## 5. 他の市町村あるいは民間企業との連携により平常時も有効活用

常設避難所として運営することができれば平常時には「避難所運営」に訓練施設として運用が可能である。市町村はもちろん民間企業にも貸し出しを行うことで運営に必要な資金を捻出するだけではなく、非常食などの消耗品も定期的に入れ替えが可能である。

ただし、災害研修施設としての運用は常設避難所が複数用意出来てからにするべきであると考ええる。

観光地としての責任・市民への責任・社会貢献という意味での責任以上の三つの責任を果たすことのできるのが今回の常設避難所の構想である。

また、未曾有の災害が他地域で発生した場合、緊急避難的な生活空間として提供が可能である。仮設住宅の建設を行うよりも低予算でなおかつ迅速に対応が可能となる。こういった災害対策を観光地が行うことは静岡県のみならず国内全域において必要となる。

## ○最後に

現状、大規模災害が発生した場合には熱海市民はもちろん観光客も市内での避難所生活を強いられる可能性が高い。その場合現時点で用意・想定している避難所の運営では到底間に合わないことは明らかである。様々な問題や課題も多くあるが、安心安全に楽しめる観光都市、災害の多い地域だからこそ取り組むべき課題であると確信する。

災害対策の本質を考え、前向きに検討すべき課題だと考える。

## ○補足事項：避難所運営にあたっての問題点

- ・ペット同伴での避難を可能とする。

衛生面や危険性などの問題もあるため現状ペット同伴の要望に応えることは難しいと考えるが、大切な家族として考えている人も少なくない為、これを留意した避難所設営を検討すべきである。

- ・携帯電話の電源確保及び wifi 環境の整備

通信手段・連絡手段として必要不可欠となっている現代において充電設備は必要不可欠であると考ええる。常に開放する必要はないが必要に応じて使える充電設備は用意しておくべきである。また同様にキャリアの通信手段が使えない可能性も出てくるため wi-fi 環境の整備もしておくことでより安心な避難所生活が可能となる。

## ◆ まとめ

熱海復活と言われているが、過去の宿泊数から考えればこれから如何に更に伸ばしていくかが重要である。

観光としての見どころや回遊性を常に高める為には毎年の投資は必要であり、その費用の捻出は大変な努力が必要である。宿泊税を導入していくことが決まっていく中で、確かな投資への財源をどれほど確保していくか、導入による宿泊減の検証と共に議論を深める必要がある。同時に多くの観光客を受け入れる側として、安全安心な整備していくことで継続的な発展は望めると考える。

その中でこれからは如何にやめていくかが重要な課題と考え、選択と集中をより明確に進めていくことが求められる。

超高齢先進地とはいえ、30年経てばその人口統計もさらに変わっていく。未来を担う若者が働きやすく住みやすい環境を観光と絡め検討し実現していくことが街の代謝を促すことになる。

我々熱海青年会議所は、熱海の発展にこれからも寄与し貢献していくことを信念とし今後も活動していく所存である。

責任編集者  
一般社団法人熱海青年会議所  
まちづくり委員会  
委員長 二見一輝瑠